

ねんだい とまこまいこう  
 しかし、1960年代から、苫小牧港と  
 りんかいこうぎょうちたい けんせつ  
 臨海工業地帯の建設で、ハスカップの  
 じせいち  
 自生地の多くが消えていきました。この  
 ため、苫小牧市民は、ハスカップの保護  
 かつどう  
 活動を行い、多くのハスカップが他の場  
 所へ移植されていきました。



建設途中の苫小牧港(1955年)

写真：「中居正雄著（とまこまいの植物）苫小牧民報社発行より」

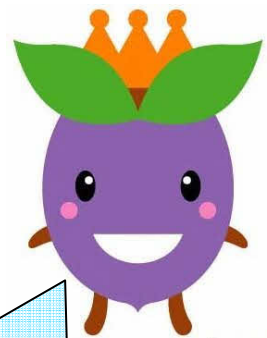
みどりがおか こうえん はやきたちく  
 現在、苫小牧市緑ヶ丘公園や、厚真町、安平町早来地区などで見られるハスカップのほとんどが、移植されて栽培されたものです。自生するハスカップが見られるのは、弁天沼周辺など、勇払原野の一部とウトナイ湖岸などだけになってしまいました。



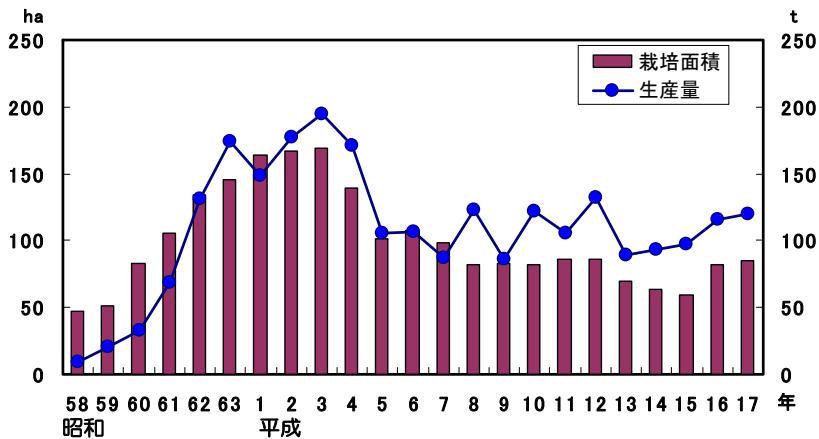
地図：胆振支庁管内図（「国土地理院発行20万分の1地勢図」を複製したもの）

## 農業としてのハスカップ栽培。

農業としてのハスカップ栽培は、1970年頃、千歳市から始まったようです。  
 新千歳空港工事で失われるハスカップを農家の畑に移植し、栽培したのです。  
 苫小牧市や厚真町では、1980年代から、苫小牧港と臨海工業地帯の建設に伴い移植されたハスカップで栽培がスタートしました。  
 その他、美唄市でも、苫小牧の菓子会社からハスカップ栽培を依頼されるなど、栽培が始まりました。



### ●北海道のハスカップ栽培面積や生産量



平成元年まで生産量が急増して、価格が下がり、その後の生産量は減少したんだ。最近では増加する傾向だよ。

### ●市町村別の栽培面積や生産量

市町村名	栽培面積(ha)	生産量(t)
千歳市	19.6	20.0
美唄市	14.3	39.5
厚真町	11.0	16.0
上富良野町	8.2	6.4
新得町	8.0	3.6
その他	23.7	34.8
合計	84.8	120.3

市町村別栽培面積と生産量・H17

